

Report for CIL Event (Workshop/Lecture/Event) subsidy 2021FA

実施日: 2022 年 1 月 15、19 日

Date of Event: Year 2022 Month 01 Day 15 & 19

開催責任者 Event Organizer	氏名 Name	衛藤智子 Tomoko ETO		
	所属 Affiliation	言語教育センター Center for Language Education	職位 Position	特任講師 Senior Lecturer

イベント名称 Event Title	Language Festival			
イベント種別 Event Type	<input type="checkbox"/> Workshop <input type="checkbox"/> Lecture <input checked="" type="checkbox"/> Others (学生による言語レッスン / Language lessons taught by students)			
開催時期 Duration of Event	<ul style="list-style-type: none"> • イベント本番: 2022 年 1 月 15 日 • フォローアップ交流会: 2022 年 1 月 19 日 • Event: 2022/01/15 • Follow-up session: 2022/01/19 <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; font-size: small;"> Year Month Day Year Month Day Days </div>			
開催地 (会場) Venue	Hybrid (対面&オンライン / offline & online)			
開催言語 Language	<input checked="" type="checkbox"/> English / <input checked="" type="checkbox"/> 日本語			
ターゲット Target Audience	APU 学生と教職員、別府市民、大分県の高校生 Students, faculty and staff of APU; citizens of Beppu; and high school students of Oita Prefecture			
参加者数 Number of Participants	学内/From APU	N/A (以下参照 / See below.)	合計 Total	140
	学外/From Outside APU	N/A (以下参照 / See below.)		
報告内容 / Report セミナーの状況を詳しく記載してください。 / Please describe the seminar in detail.				
Language Festival について以下の四つの項目について報告を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. イベント実施概要 2. 参加申込者概要 3. 参加者満足度アンケート回答総括 4. イベント目標についての評価 				

1. イベント実施概要

開催日時・場所:

イベント:1月15日(土)にAP House 4にて本イベントを実施した。

フォローアップ交流会:1月19日(水)オンライン実施。

目的:

1. 大学・地域コミュニティでのダイバーシティに対する理解とインクルージョンの向上
2. 他文化・自文化理解の促進
3. 学生のリーダーシップ育成
4. 大学・地域コミュニティ内の交流促進
5. 地域内マイノリティーの学生にアイデンティティー発表の場の提供

実施内容:

APUの希少国・地域出身学生が自己紹介とともに、自分たちの出身地についての文化・言語の紹介を行う文化講座を実施。各講座は30分間、日本語と英語の二言語で提供された。

スケジュール:

別紙参照

実施形式:

イベント当日:ハイブリッド

フォローアップ交流会:オンライン

聴講者

当日参加者数は、以下の通り。

対面:44名(日本語:30名、英語:14名)

オンライン:96名(日本語:43名、英語:53名)

フォローアップ・セッション:2名(ハイブリッドでの実施を計画していたが、コロナ感染拡大のため、オンラインのみでの実施となった。20名の参加希望者がいたが、当日参加は2名のみであった。)

運営スタッフ

学生講師:10名

学生スタッフ:10名(イベント準備、設営、講師へのレッスン内容と言語サポート、イベント運営、満足度アンケートデータ入力を担当)

教員4名

2. 参加申込者概要

最終参加申し込み状況は以下の通りである。

対面参加申し込み:46名

オンライン参加申し込み:92名

(1) 属性

対面参加では約60%を社会人、30%を大学生・大学院生が占めたが、オンラインでは、60%を大学生・大学

院生が占め、35%が社会人という内訳であった。オンラインでのイベント参加への慣れが反映されていると推測する。今後、イベントのメインターゲットに合わせた実施形式の選択が必要となると思う。

職業 / Occupation	生徒（高校生以下） / a student in high school or younger	大学生・大学院生 / an undergraduate or graduate student	社会人 / an adult (not a student)	その他 / Other	Total
Offline	2 (5%)	12 (30%)	24 (62%)	1 (2%)	39 respondents (100%)
Online	1 (1%)	59 (64%)	32 (35%)	0 (0%)	92 respondents (100%)

(2) 情報源

対面参加申し込み者は、「知人・友人から」「B-biz LINK 紹介」が半数以上を占め、知人からの直接紹介が有効であったことがわかる。一方、オンライン参加申し込み者には、「知人・友人から」に加え、「APU 内での宣伝」や授業講師からの紹介が効果的であったようだ。

情報源 / Information source	別府市報 / Beppu city paper	インスタグラム / Instagram	フェイスブック / Facebook	別府市内のレストランや店舗で / Restaurants and shops in Beppu	友人・知人から / From friends and acquaintances	APU内での宣伝 / Ads at APU	B-biz LINK 紹介 / From B-biz LINK	筒井先生から / From Professor Tsutsui	その他 / Other	
Offline	2 (5%)	0 (0%)	3 (8%)	0 (0%)	13 (33%)	7 (18%)	9 (23%)	0 (0%)	5 (13%)	39 respondents (100%)
Online	1 (1%)	1 (1%)	6 (7%)	1 (0%)	27 (30%)	44 (48%)	0 (0%)	6 (7%)	5 (5%)	91 respondents (100%)

(3) 希望媒体言語

対面では、日本語での受講希望者数がやや上回るが、オンラインでは、英語での受講希望者が6割を占めた。

希望媒体言語 / Preferred medium language	日本語 / Japanese	英語 / English	
Offline	21 (55%)	17 (45%)	38 respondents (100%)
Online	34 (37%)	57 (63%)	91 respondents (100%)

(4) 居住地

コロナ禍で対面参加者は大分県内在住者のみ参加可とした。オンライン参加希望者は、県内在住者は約半数で、その他県外、国外在住者からも参加申し込みを受けた。つまり、このイベントは、県内在住者のみならず、県外在住者にとっても APU の多様性に触れてもらう機会であり得たと考えられる。さらには、国外在住の参加希望者には、学生講師の家族や知人などが含まれると考えられる。国際学生が APU でどのような活動をしているのかを、家族や知人に見てもらいたい機会にもなっていたと思う。このことから、本イベントがアドミッションや大学の広報としての機能も担えるイベントになりうるのではないかと考える。

居住地域 / Resident area	大分県内 / Within Oita Prefecture	日本国内 / Within Japan (other than Oita Prefecture)	日本国外 / Overseas	
Offline	39 (100%)			39 respondents
Online	43 (47%)	21 (23%)	28 (30%)	92 respondents

3. 参加者満足度アンケート回答総括

イベント終了時に満足度アンケートへの回答を全ての参加者に依頼した。63名から得られた回答を以下にまとめる。

(1) 今回のイベントに期待したこと / What they expected in this event.

満足度アンケートの結果から(下表参照)、多くの参加者が異文化理解、言語学習、交流を期待し、イベントに参加したことがわかる。また、これらイベントに対する期待は高い値で満足させられたと言えそうだ。

期待したこと / Expectation (63 respondents)	回答数	割合 (*1)	満足度平均 (*2)
異文化理解	35	56%	4.5
言語(新たな言語との出会い、英語・日本語学習)	23	37%	4.2
教員の研究的視点(留学生の日本語力、国内学生の英語力、プレゼンテーション能力など)	4	6%	4.5
交流(留学生との交流、新たな出会い)	10	16%	4.5
その他	3	5%	3.3

(*1) 回答は自由記述式であったため、回答の重複があった。回答内容は、イベント実施者がコード化し、分析を行った。

(*2) 満足度は5段階リッカート尺度を利用し、回答を求め、得られた回答の平均値を出した。(まったく満足していない = 1、とても満足した = 5)

(2) 感想

アンケート回答の感想の中から典型的なものを以下に示す。

- 今日、多くの国々の方のレクチャーを受けることができ、感謝しております。まだよくスポットを浴びてない国、国の深刻な現状を知ってほしい国もあると思います。そういうことを紹介してほしいと思います。そうすることで、問題を解決する手段も見つかるかも。
- とても素敵なイベントでした。定期的に開催していただけると、良いなと思いました。
- 講師の日本語がとても流暢でわかりやすかったです。私は言語と背景にある文化をもっと学んでいこうと思います。「言語がなくなる」という話がありましたが、それについて調査していきたいです。貴重な経験となりました。ありがとうございました。Kalahngan! Thank you! Multumesc! YIN SHA LICH!
- 日本語での講義はとても大変だったと思いますが懸命に話してくれて楽しかったです。また、このような講義を開いてほしいです。

(3) アンケート結果から読み取れる、今後に向けての改善点・検討事項

a. 言語:

「講師の英語が聞き取りづらかった」「日本語がよくわからなかった」などのコメントがあった。発表する学生にとっても、外国語力・発信力を養う機会になると思うので、スライドなど視覚的補助の効果的利用法を検討したり、模擬授業でのチェック項目リストを作成したりするなどし、改善を図っていこうと思う。また逆に、今回のイベントの目的を考えれば、英語の多様性や学習している言語に対する寛容をオーディエンスに考えてもらう機会とし、そのような働きかけをこちらから行っていくことで、さらなる「インクルージョン」や「交流」の促進の環境作りに貢献できると考えている。

b. 講義時間:

一講義 30 分間という時間設定について、「もう少し時間がほしかった」というコメントを数名から得た。

c. 技術的問題:

ハイブリッドでのイベント実施に伴い、「マイクなどの音声」、「PC の情報処理スピード」、「オンライン参加講師のインターネット接続」などの問題、「zoom カメラで会場の様子を映してほしい」とのリクエストを得た。今後ハイブリッドでのイベント継続を考えるのであれば、メディア・センターなどの専門部署にサポートを依頼したい。

d. 内容:

「全ての講師が共通の内容について話してほしい」という要望があった。このコメントについては、異なる文化や社会を比較するための定点として、全ての講義において取り扱われる共通の項目を盛り込んでほしいという要望だと理解している。「もっと言語に焦点を当ててほしい」との声もあったが、「こんにちは」や「ありがとう」というような常用フレーズは必ず盛り込み練習の時間を設けるが、その他の内容については、講師の伝えたいことを優先させる、という方針をとり続けたい。

4. イベント目標についての評価

今回のイベントの目標の達成具合についての振り返りには、講師学生、スタッフ学生の振り返りアンケート結果を踏まえる必要があるが、これらアンケートの回答は 1 月 26 日現在、未だ受付中である。(学生たちは期末試験期間であるため、アンケートの提出期間には余裕を持たせ 1/31 を締め切りとした。)そのため、上記参加者アンケートの結果を踏まえた参加者の視点と、すでにアンケート回答を得られたスタッフ学生 4 名と講師学生 4 名の視点、スタッフ教員の視点から、以下、イベントの目標達成について評価を行う。

(目標 1) 大学・地域コミュニティでのダイバーシティに対する理解とインクルージョンの向上

このイベントでは、文化的・言語的ダイバーシティに焦点を当てたものであるが、参加者、スタッフ、講師を含め 160 名がこのダイバーシティに注目し、参加したということに大きな意義があったと考える。ダイバーシティ理解やインクルーシブ社会の実現には、様々な段階があると思うが、少なくともこれらに対する参加者、関係者の意識の向上には貢献できたと思う。

(目標 2) 他文化・自文化理解の促進

参加者満足度アンケートの結果では、異文化理解を求めて参加した 35 名の満足度は 4.5(5=とても満足)という値であった。また、講師からも「講義の準備を通じ、自文化について改めて学ぶ機会になった」というコメントが寄せられている。これらを踏まえ、本イベントが他文化・自文化理解の促進のきっかけとなり得ていると言えると思う。

(目標 3) 学生のリーダーシップ育成

すでに提出されたスタッフ学生 4 名からの振り返りアンケートの結果によると、今回のイベント運営に関わることで、想定外の問題が発生した際に「他のスタッフとともにいかに行動し(チームワーク)」、またそこで、「自分はどのような役割を果たすべきなのかを考え、行動した(リーダーシップ、問題解決能力)」というような記述が複数見られた。トラブル自体は望ましくはないが、それがスタッフ学生の責任感を養うきっかけになったようだ。

今回準備に約3ヶ月という時間をかけたが、最終的には時間が足りず教員が多く手を出してしまうこととなった。学生により多くの役割を果たしてもらうために、もう少し準備に時間をかけること、また、多様性やインクルージョン、異文化理解について、スタッフ勉強会なども実施することができれば、さらなる学生の成長につながられると思う。

(目標 4) 大学・地域コミュニティ内の交流促進

コロナ禍という特異な状況でのイベント実施となったが、参加者満足度アンケートでは、交流(留学生との交流、新たな出会い)を期待して参加した 10 名の参加者については、満足度が 4.5(5=とても満足)という値であった。イベントでは講義を中心とし、フォローアップ・セッションでは、個別交流を重視したイベント設計であったため、オンラインでのフォローアップ・セッションに参加できなかった参加者にとっては、「もっと交流したかった」という名残が少し残る形になったかもしれない。

また、イベント当日に、講師やスタッフ学生の間で新たな交流の場が生まれていた。また、講師アンケートの中にも、他の講師からの学びについての記述も見られた。大学コミュニティ内での新たな出会いや交流を提供できたと思う。

(目標 5) 地域内マイノリティーの学生にアイデンティティー発表の場の提供

今回 10 の希少国、地域とそこで使用されている言語について講座を行うことができた。講師たちは、自分たちの国・地域と言語について発表する機会を得たことをとても喜び、入念に準備し、本番に臨んでいた。また、参加者からも「普段なかなか直接話を聞く機会のない国・地域のことを聞いたことが新鮮で興味深かった」というような感想を受けている。

まとめ

ハイブリッドでのイベント実施に伴い、色々トラブルもあったが、参加者からは、「異文化理解の場となった」「新たな言語の学びの場」「新たな出会い・交流の場」となったというような感想を受けた。また、講師の側もこちらの想像以上に自分たちの文化について紹介する機会に興奮し、喜んでくれていたように見えた。このようなイベントを長く続けていくことが大学や地域コミュニティのより良い異文化共生やインクルージョンにつながると信じ、継続していきたいと考えているが、そのためには、上述の技術面・予算面の問題について検討・解決していく必要があると思う。また、学内の関係者を始め、別府市、大分県内の色々な方にお知恵やご協力をいただき、より広い多様性について学べる、面白いイベントを展開していきたいと考えている。

(別紙) イベント・スケジュール / Event Schedule

		Lessons in English (2 nd Floor) 英語での講座 (2 階)	Lessons in Japanese (1 st Floor) 日本語での講座 (1 階)
Session 1 第一部	10:00-10:10	Opening 開会	Opening 開会
	10:10-10:40	Marshallese / マーシャル語 (Republic of the Marshall Islands / マーシャル諸島共和国)	Nepalese / ネパール語 (Nepal / ネパール)
	10:50-11:20	Portuguese / ポルトガル語 (Mozambique / モザンビーク)	Khmer / クメール語 (Cambodia / カンボジア)
	11:30-12:00	Persian / ペルシャ語 (Afghanistan / アフガニスタン)	Cantonese / 広東語 (Hong Kong / 香港)
	12:00-12:05	Closing 閉会	Closing 閉会
	12:05-12:30	Interval 休憩	
Session 2 第二部	12:30-12:35	Opening 開会	Opening 開会
	12:35-13:05	Pohnpeian / ポンペイ語 (Federated States of Micronesia / ミクロネシア連邦)	Marshallese / マーシャル語 (Republic of the Marshall Islands / マーシャル諸島共和国)
	13:15-13:45	English / 英語 (South Sudan / 南スーダン)	Portuguese / ポルトガル語 (Mozambique / モザンビーク)
	13:55-14:25	Romanian / ルーマニア語 (Romania / ルーマニア)	Arabic / アラビア語 (Palestine / パレスティナ)
	14:25-14:35	Closing 閉会	Closing 閉会
	14:35-14:55	Interval 休憩	
Session 3 第三部	14:55-15:00	Opening 開会	Opening 開会
	15:00-15:30	Nepalese / ネパール語 (Nepal / ネパール)	Pohnpeian / ポンペイ語 (Federated States of Micronesia / ミクロネシア連邦)
	15:40-16:10	Khmer / クメール語 (Cambodia / カンボジア)	English / 英語 (South Sudan / 南スーダン)
	16:20-16:50	Cantonese / 広東語 (Hong Kong / 香港)	Romanian / ルーマニア語 (Romania / ルーマニア)
	16:50-17:00	Closing 閉会	Closing 閉会